

12
ダビデ
聖徒伝 96

「永遠の神の 平和を求めて」

サムエル記第二 8～10章 拡大する領土・ダビデへの祝福

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 拡大する領土 8章

II. ダビデの誠意 9章

朗読：詩篇133篇

III. アラムとの戦い 10章

朗読：詩篇124篇

IV. まとめと適用

今ある戦い、

味わうべき交わりの恵み



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

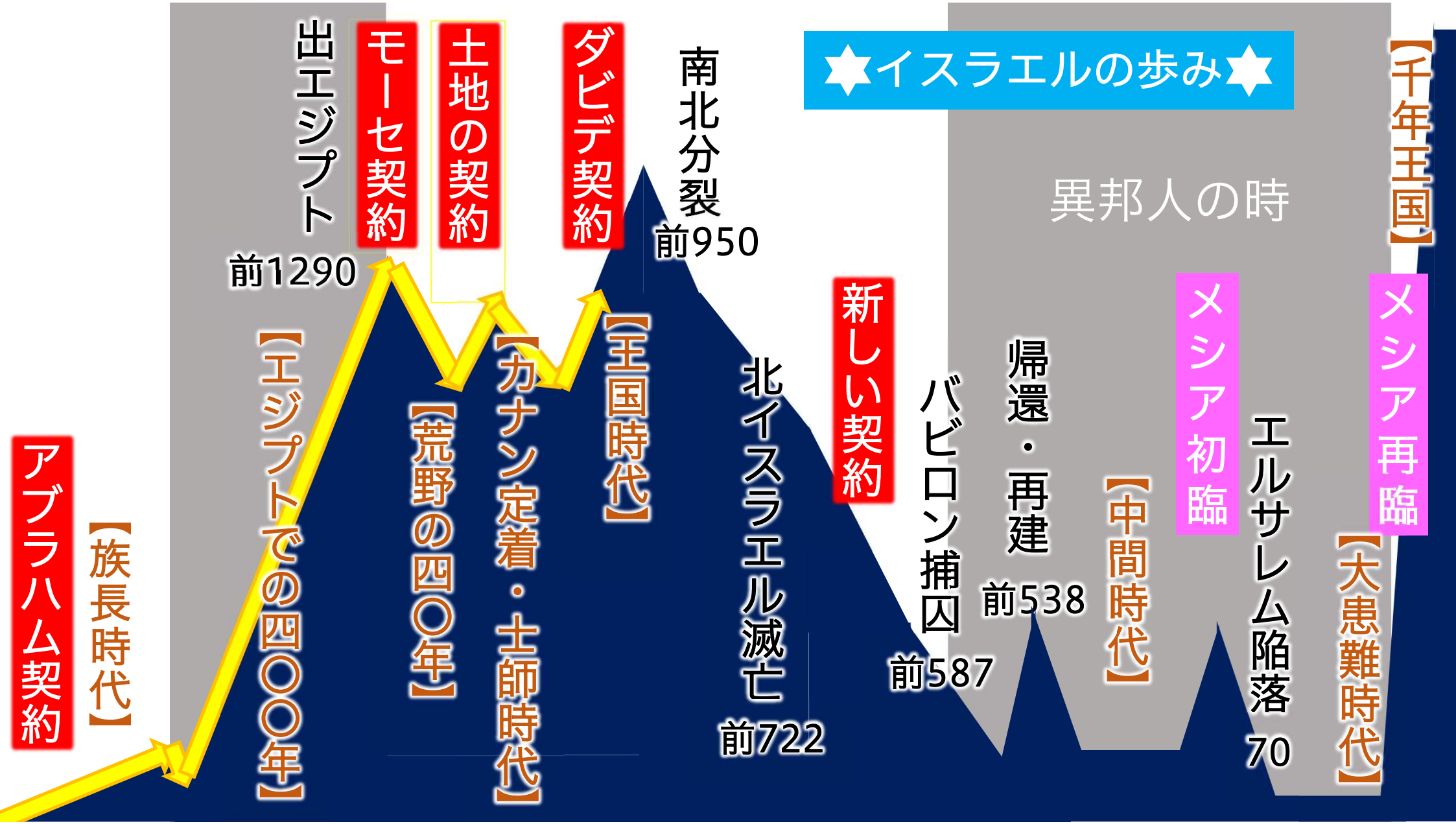
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

アブラハム契約

【族長時代】

出エジプト
前1290

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂
前950

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

【中間時代】

帰還・再建
前538

エルサレム陥落
70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【アブラハム契約とは？】

■ 聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【アブラハム契約の三つの約束】

① 子孫の約束 → ダビデ契約に発展

② 土地の約束

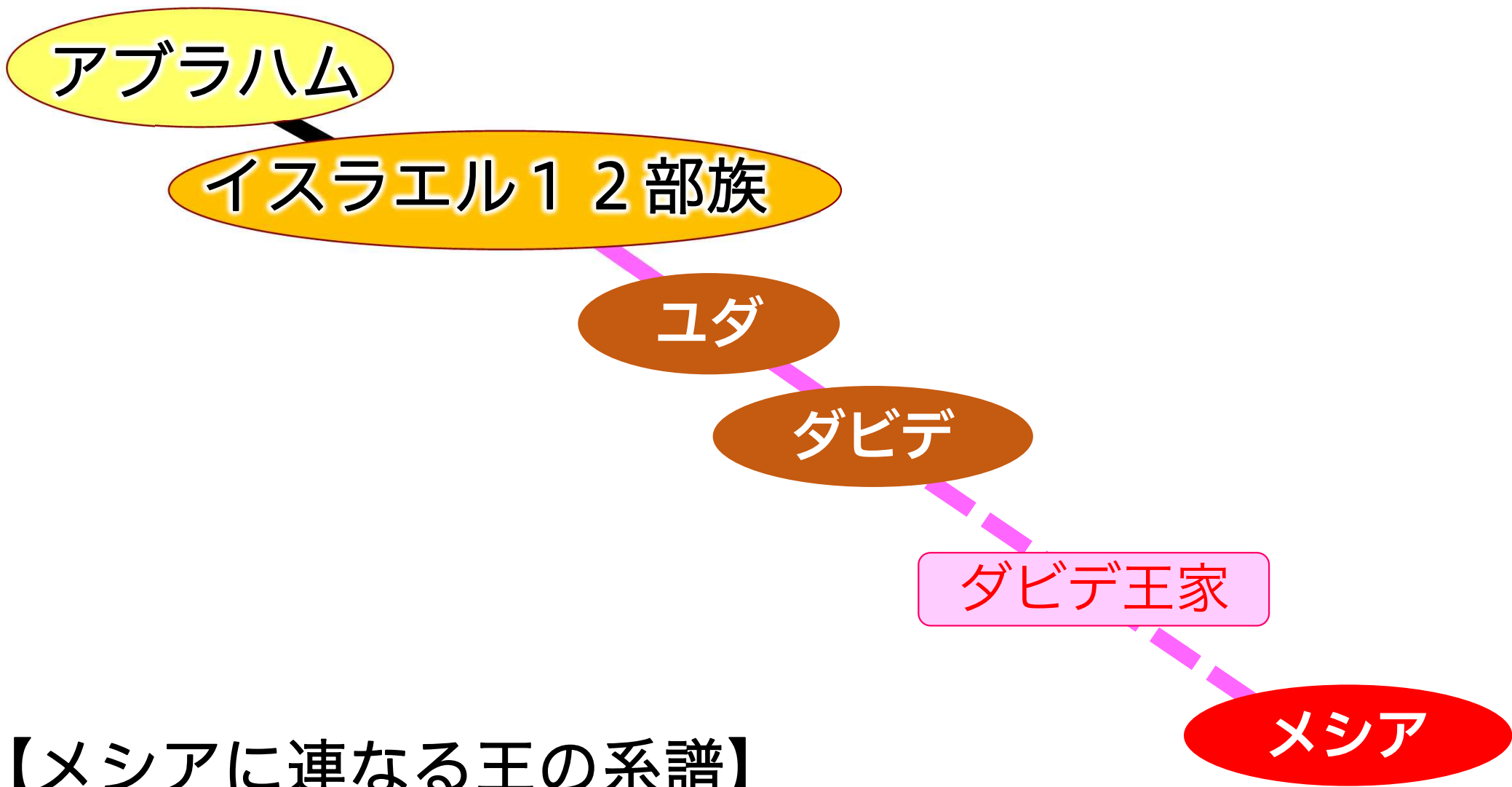
③ 祝福(地上の諸民族の祝福)の約束



【ダビデ契約とは？】

- エブス人を討ち、エルサレムを都としたダビデ王が、契約の箱をエルサレムに運び入れた後、神が**一方に約束***されたこと。
→ **無条件契約***
- アブラハム契約の「**子孫の約束**」の発展版。
- ユダ族のダビデ王の家系から**メシア**が誕生することが明らかになった。





【メシアに連なる王の系譜】

サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負

ユダの王	1 : 1~27	サウルとヨナタンの死
	2 : 1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	ダビデ契約 の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 領土の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

【ダビデの足取り】 サムエル記一11～二6章

- 無実の罪による逃亡生活は、サウル王の死で終わった。ダビデはまず、7年半、ユダ族の王となり、全イスラエルの王となった。
- ダビデは、エブス人からエルサレムを勝ち取り、イスラエルの都とした。都に神の箱が担ぎ上げられた。
- 神は、ダビデを祝福し、ダビデの王家を永遠に守り、導くと約束された。究極的には、ダビデの血筋から、真実の永遠の王・メシアが誕生することになる。



【今の時代の原則の確認】 II サムエル

■ ダビデの戦いは、ヨシュアに命じられた**聖絶の戦い**の延長線上、**アブラハム契約**の守りの内に。

→ 主はイスラエルを道具として用いて、
罪極まった偶像礼拝の民を厳しく裁かれた。

■ バビロン捕囚以降、イスラエルの占有権は喪失。
約束の地を得るのは、メシアの再臨以降。

■ 今の教会時代の信者の使命は、キリストの僕として侮辱にも忍耐し、福音を伝えること。

→ それが**十字架**を負って生きる信者の使命



今の時代には
適用不可能!!



I. 拡大する領土 サムエルII 8章

エルサレムの夕景

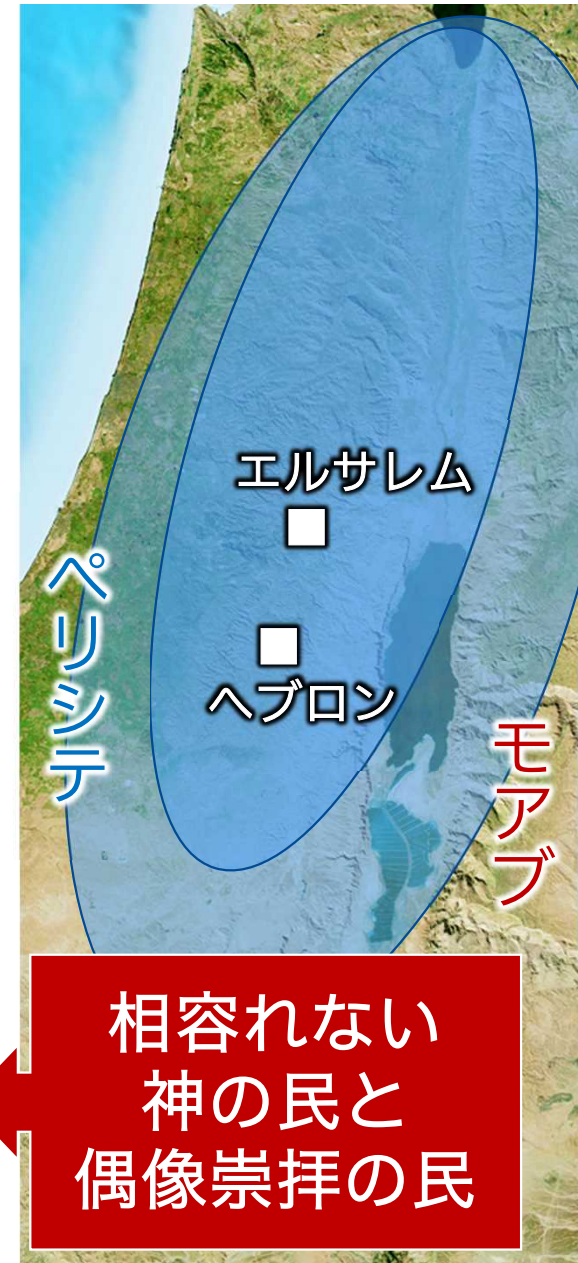
【ペリシテ、モアブとの戦い】 II サムエル8:1～2

その後のことである。ダビデはペリシテ人を討ってこれを屈服させた。ダビデはメテグ・ハ・アンマをペリシテ人の手から奪い取った。

彼は**モアブ**を討ち、彼らを地面に伏させ、測り縄で彼らを測った。縄二本で測った者を殺し、縄一本で測った者を生かしておいた。モアブはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。

■ イスラエルの仇敵ペリシテとモアブ。

ダビデが身を寄せたこともある国だが、イスラエルの王となったダビデに挑み、敗退した。



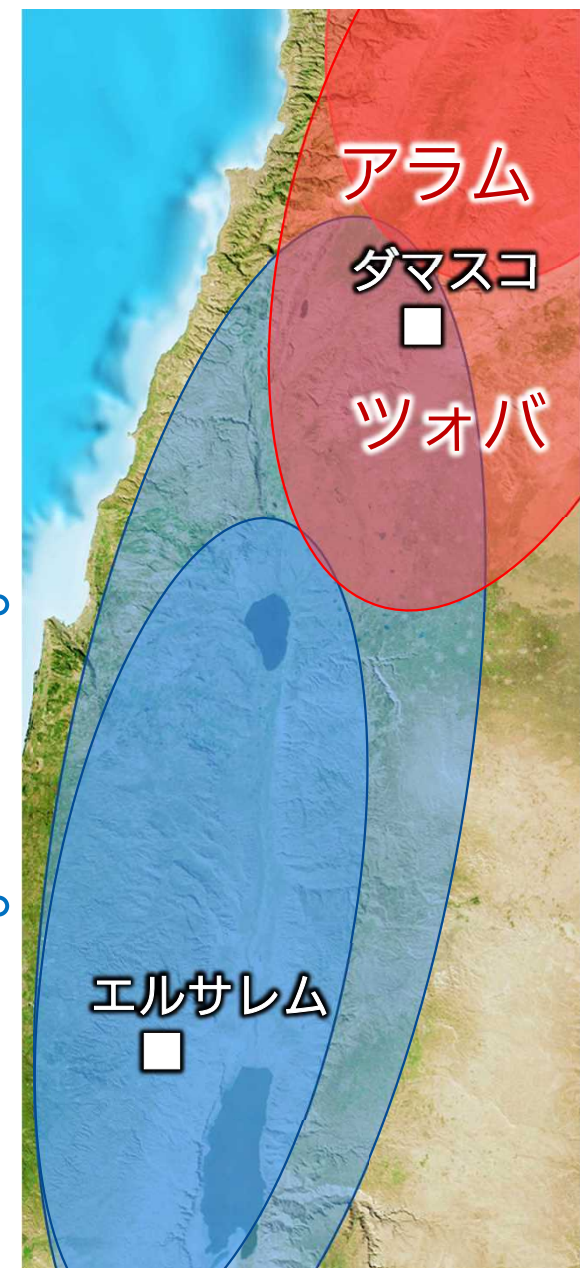
【ツォバ・アラムとの戦い】 Ⅱ サムエル8:3～5

ツォバ*の王、レホブの子ハダドエゼルが、ユーフラテス川流域にその勢力を回復しようとして出て行ったとき、ダビデは彼を討った。

ダビデは、彼から騎兵千七百、歩兵二万を取った。
ダビデは、そのすべての戦車の馬の足の筋を切った。
ただし、そのうち戦車百台分の馬は残した。

ダマスコの**アラム***がツォバの王ハダドエゼルを助けに来たが、ダビデはアラムの二万二千人を討った。

***ツォバもアラム**と同族。南アラムに勢力があったツォバのユーフラテス遠征の際を突いたダビデ。



【アラムからの分捕り物】 II サムエル8:6～8

ダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラムはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。

ダビデは、ハダドエゼルの家来たちが持っていた**金の丸い小盾***を奪い取り、エルサレムに持ち帰った。

またダビデ王は、ハダドエゼルの町ベタフとベロタイから、非常に多くの**青銅***を奪い取った。

*後に神殿建設の材となった。



【ハマテの王トイ】 Ⅱ サムエル8:9～10

ハマテの王トイは、ダビデがハダドエゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。

トイは、息子ヨラムをダビデ王のもとに遣わし、安否を尋ね、ダビデがハダドエゼルと戦ってこれを打ち破ったことについて、祝福のことばを述べた。ハダドエゼルがトイにしばしば戦いを挑んでいたからである。ヨラムは銀の器、金の器、青銅の器を携えていた。



【分捕り物の聖別】 II サムエル8:11~12

ダビデ王は、それらもまた、**【主】のため**に**聖別***した。彼が征服したすべての国々から取って聖別した**銀や金**、すなわち、アラム、モアブ、アンモン人、ペリシテ人、アマレクから取った物、およびツォバの王、レホブの子ハダドエゼルからの分捕り物と同様にした。

*ダビデは、分捕り物の多くの金銀を次代の王による神殿建設のために主のものと聖別し、手を付けずにいた。



【エドムへの勝利】 II サムエル8:13～14

ダビデが塩の谷で**アラム**人一万八千人を討って帰って来たとき、彼は名をあげた。

彼は**エドム**に守備隊を、エドム全土に守備隊を置いた。こうして、全エドムはダビデのしもべとなった。【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。

■長年イスラエルを苦しめてきた国々に主によって次々に勝利していったダビデ。



【統治体制】 II サムエル8:15～18

ダビデは全イスラエルを治めた。ダビデはその民のすべてにさばきと正義を行った。

ツェルヤの子**ヨアブ**は軍団長、アヒルデの子ヨシャファテは史官、アヒトブの子**ツアドク**とエブヤタルの子**アヒメレク**は祭司、セラヤは書記、エホヤダの子ベナヤはクレタ人とペレテ人の上に立つ者、ダビデの息子たちは**祭司***であった。

*王の側近(歴 | 18:17)



ダビデの町



II. ダビデの誠意

サムエル記 II 9 章

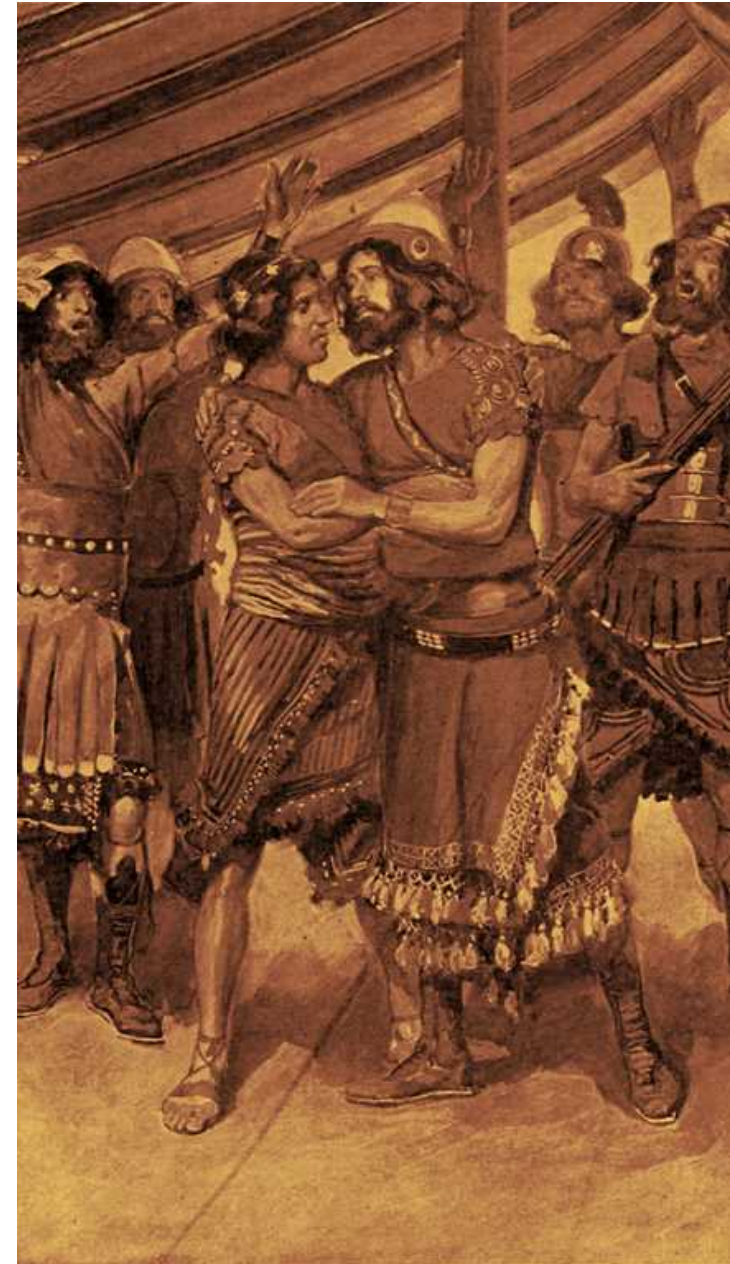
イスラエル平原

【ヨナタンとの約束】 Ⅱ サムエル9:1～3

ダビデは言った。「サウルの家の者で、まだ生き残っている人はいないか。私は**ヨナタン**のゆえに、その人に真実を尽くしたい。」

サウルの家に**ツィバ**という名のしもべがいて、ダビデのところ呼び出された。王は彼に言った。「あなたが**ツィバ**か。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」

- 兄弟の契りを結んだ亡き**ヨナタン**との約束。彼の家に恵みを注ぐと。思い起こすダビデ。
➔ 王朝が変われば一族皆殺しの時代に。



【ダビデからの使者】 Ⅱ サムエル9:3～5

王は言った。「サウルの家の者で、まだ、だれかいないか。私はその人に神の恵みを施そう。」ツィバは王に言った。「まだ、ヨナタンの息子で足の不自由な方がおられます。」

王は彼に言った。「その人は、どこにいるのか。」ツィバは王に言った。「お聞きください。ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家におられます。」

ダビデ王は人を送って、ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家から彼を連れて来させた。



【メフィボシェテ】 Ⅱサムエル9:6～7

サウルの子ヨナタンの子**メフィボシェテ***は、
ダビデのところに来て、ひれ伏して礼をした。
ダビデは言った。「メフィボシェテか。」彼は
言った。「はい、あなた様のしもべです。」

ダビデは言った。「恐れることはない。私は、
あなたの父ヨナタンのゆえに、あなたに恵みを
施そう。あなたの祖父サウルの地所をすべて
あなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で
食事をすることになる。」

*サウルの死後、逃走中の事故で障害を（Ⅱ4:4）



【王の与えた恵み】 II サムエル9:8～10

彼は礼をして言った。「いったい、このしもべは何なのでしょう。あなた様が、この死んだ犬のような私を顧みてくださるとは。」

王はサウルのしもベツィバを呼び寄せて言った。「サウルと、その一家の所有になっていた物をみな、私はあなたの主人の息子に与えた。」

あなたも、あなたの息子たちも、あなたの召使いたちも、彼のために土地を耕し、作物を持って来て、それがあなたの主人の息子のパン、また食物となる。あなたの主人の息子メフィボシェテは、いつも私の食卓で食事をすることになる。」



【王の食卓】 II サムエル9:10～13

ツィバには息子が十五人と召使いが二十人いた。ツィバは王に言った。「わが主、王がこのしもべに申しつけられたとおりに、このしもべはいたします。」メフィボシェテは王の息子たちの一人のように、**王の食卓で食事***をすることになった。

メフィボシェテには、**ミカ***という名の小さな子がいた。ツィバの家に住む者はみな、メフィボシェテのしもべとなった。メフィボシェテはエルサレムに住み、いつも王の食卓で食事をした。彼は両足がともに萎えていた。

***王の家族同様の扱い。ヨナタンの友情契約ゆえに。**

***継がれていったヨナタンの家系(歴 I 8:34～)**



荒野に咲くアネモネ

《 解説 》

- ・エルサレム巡礼の歌
- ・モーセの兄、アロンの直系が、大祭司。イスラエルの信仰の象徴的存在が大祭司。
- ・唯一の神を信じ、祝福された、兄弟姉妹の美しい交わりを歌う。

聖書朗読 詩篇133篇

都上りの歌。ダビデによる。

ヘルモン山

【詩篇133篇】

133:1 見よ。なんという幸せ

なんという楽しさだろう。

兄弟たちが一つになって ともに生きることは。

133:2 それは頭に注がれた貴い油のようだ。

それはひげに アロンのひげに流れて

衣の端にまで流れ滴る。

133:3 それはまた ヘルモンからシオンの山々に

降りる露のようだ。【主】がそこに

とこしえのいのちの祝福を命じられたからである。



Ⅲ. アラムとの戦い

サムエル記Ⅱ 10章

ゴラン高原から東方を臨む

【アンモン王ナハシュ】 II サムエル10:1~2

この後、アンモン人の王が死に、その子ハヌンが代わって王となった。ダビデは、「ナハシュの子ハヌンに真実を尽くそう。彼の父が私に真実を尽くしてくれたように」と言った。そして家来たちを通して彼の父の悔やみを言うために、ダビデは彼らを遣わした。

＊サウルの最初の戦いの敵がナハシュ(-11:1)

➔アンモン軍からのヤベシュ・ギルアデ防衛

■ナハシュが逃亡中のダビデを助けた？

義を尽くそうとしたダビデだったが…。



ヨルダン川東岸

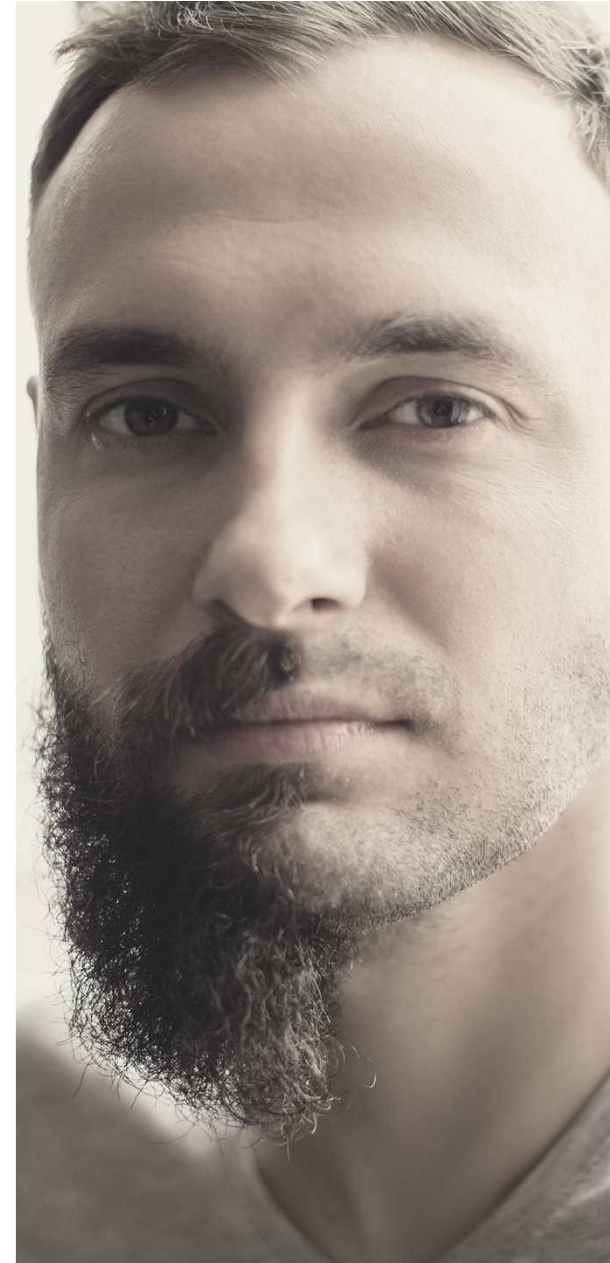
【ハヌンによる侮辱】 Ⅱ サムエル10:2~4

ダビデの家来たちがアンモン人の地に着いたとき、アンモン人の首長たちは、主君ハヌンに言った。

「ダビデがあなたのもとにお悔やみの使者を遣わしたからといって、彼が父君を敬っているとお考えですか。この町を調べ、探り、くつがえすために、ダビデはあなたのところに家来を遣わしたのではないのでしょうか。」

そこでハヌンはダビデの家来たちを捕らえ、ひげを半分剃り落とし、衣を半分に切って*尻のあたりまでにして送り返した。

*最悪の侮辱。明確な敵意の表明。

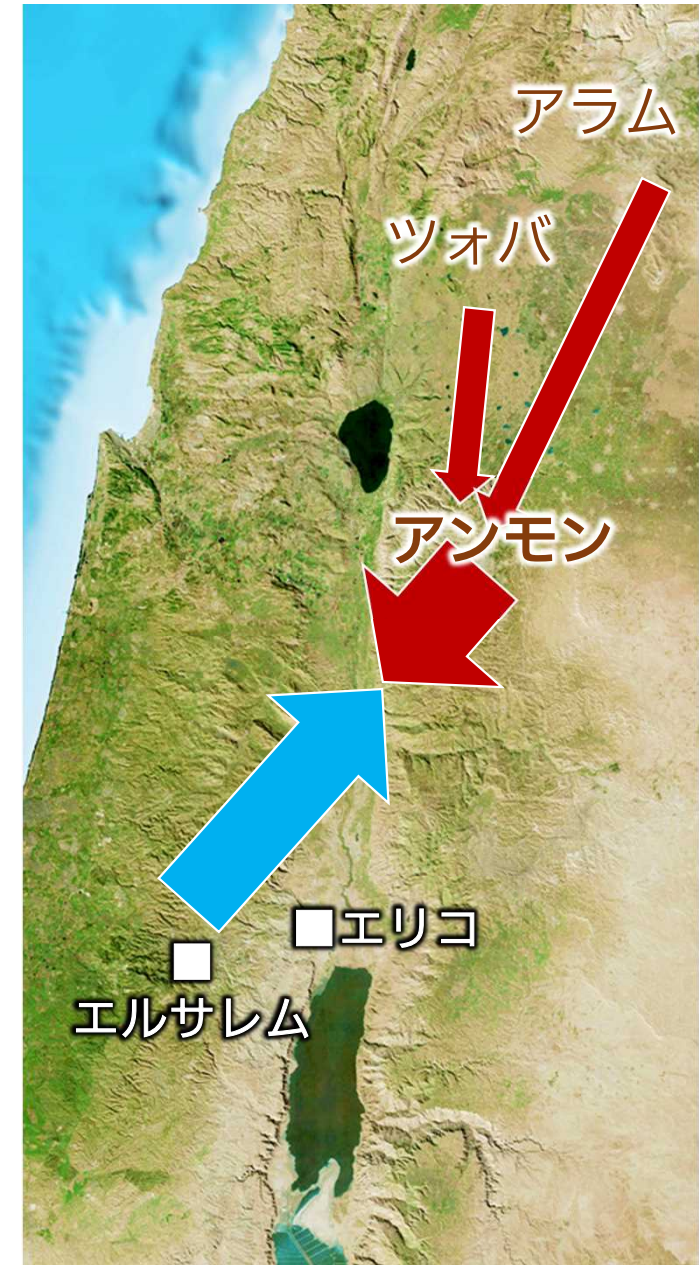


【高まる緊張】 II サムエル10:5～7

ダビデにこのことが告げられたので、ダビデは彼らを迎えるに人を遣わした。この人たちが非常に恥じていたからである。王は言った。「ひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰って来なさい。」

アンモン人は、自分たちがダビデに憎まれるようになったのを見てとった。そこでアンモン人は人を遣わして、ベテ・レホブの**アラム**人と**ツォバ**の**アラム**人の歩兵二万、マアカの王の兵士一千、トブの兵士一万二千を雇った。

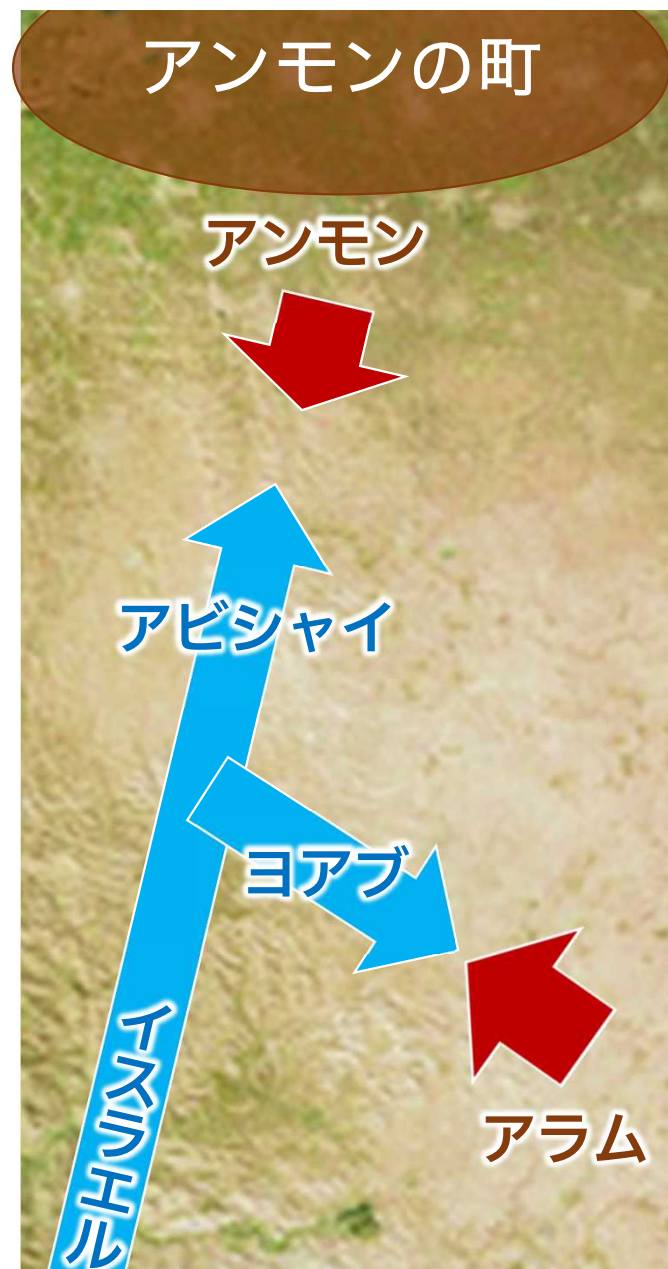
ダビデはこれを聞き、ヨアブと勇士たちの全軍を送った。



【決戦前夜】 II サムエル10:8~10

アンモン人は出て来て、門の入り口で戦いの備えをした。ツォバとレホブのアラム人、およびトブとマアカの人たちは、彼らだけで野にいた。

ヨアブは、自分の前とうしろに戦いの前線があるのを見て、イスラエルの精鋭全員からさらに兵を選び、アラム人に立ち向かう陣備えをし、残りの兵を兄弟**アビシャイ**の手に託して、アンモン人に立ち向かう陣備えをした。



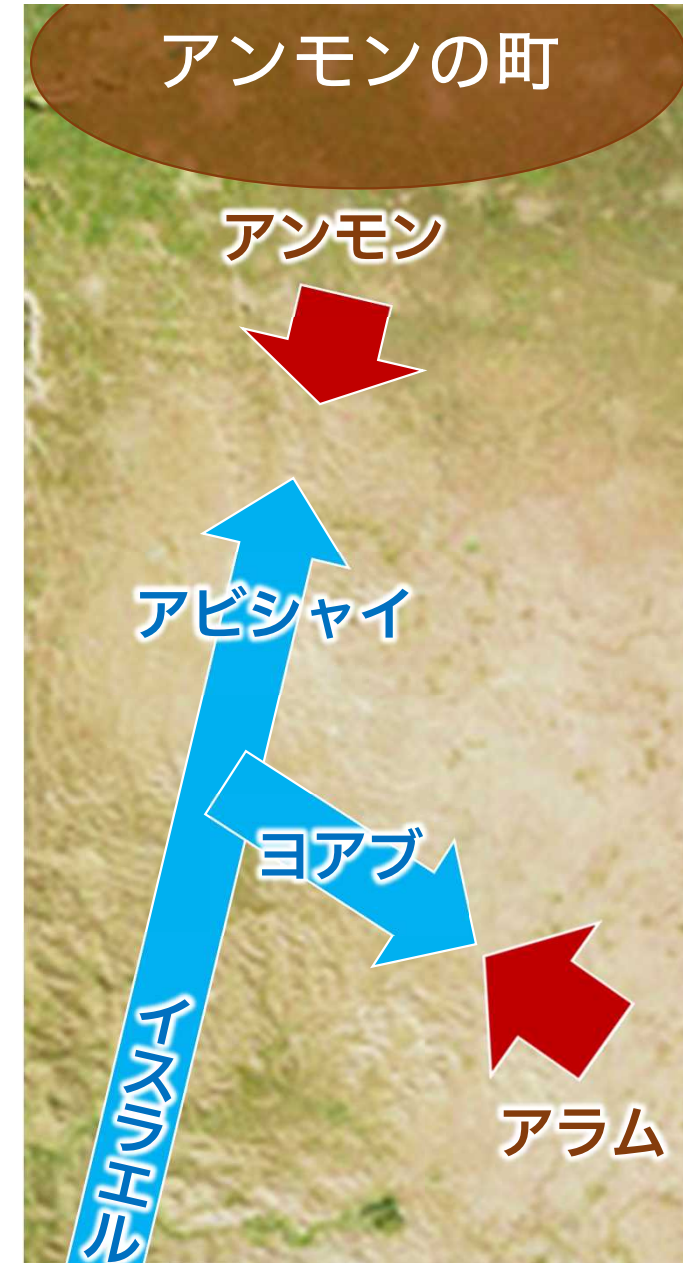
【神の勇士たち】 II サムエル10:11~12

ヨアブは言った。「もしアラム人が私より強かったら、あなたが私を救ってくれ。もしアンモン人があなたより強かったら、私があなただを救いに行こう。」

強くあれ。われわれの民のため、われわれの神の町々のために、奮い立とう。【主】が、御目にかなうことをされる*のだ。」

*信頼すべきは、戦いの勝敗を決める主。

➡戦争においては勇敢で優れた将軍ヨアブ。

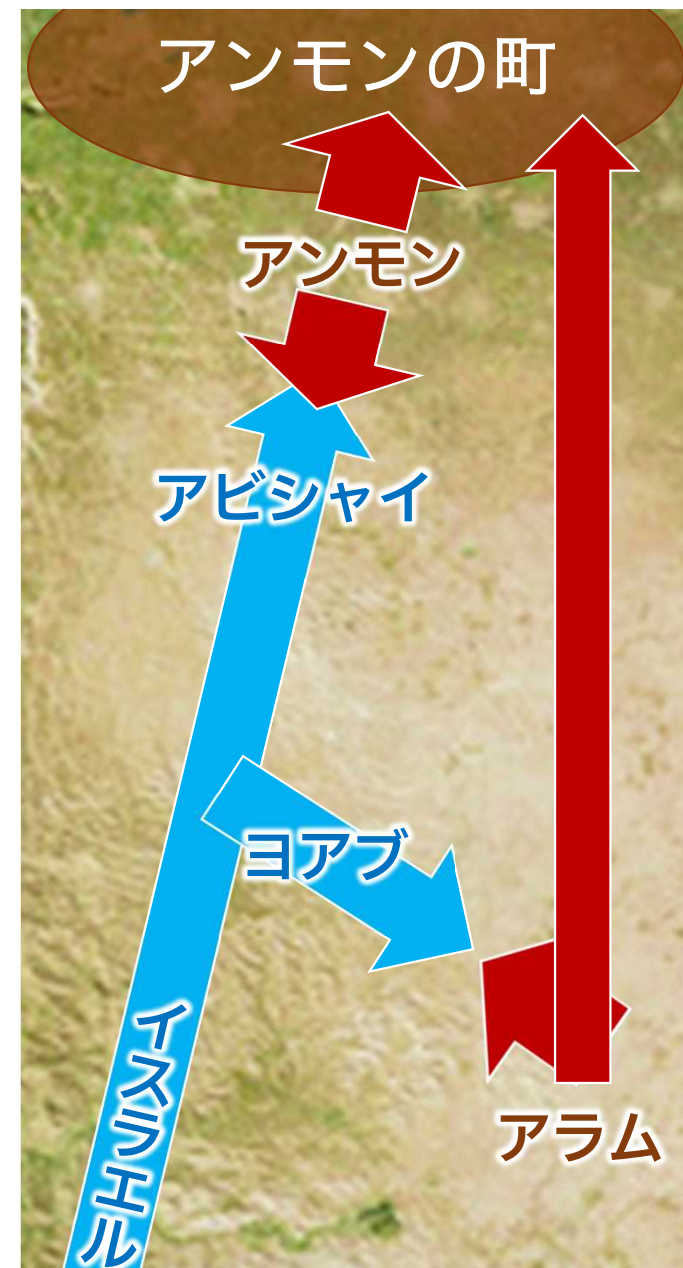


【戦いの結末】 II サムエル10:13～15

ヨアブと彼とともにいた兵たちがアラム人と戦おうとして近づいたとき、アラム人は彼の前から逃げた。アンモン人はアラム人が逃げるのを見ると、アビシャイの前から逃げて町に入った。そこでヨアブはアンモン人を討つのをやめて、エルサレムに帰った。

アラム人は、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見て、集結した。

- 戦いは攻城戦へ。ヨアブ軍は準備のため帰還。
アラム、アンモン軍も次の戦いに備えた。



【ヘラムでの決戦】 II サムエル10:16~17

ハダドエゼルは人を遣わして、ユーフラテス川の向こうのアラム人に出て来させた。彼らは、**ヘラム***にやって来た。ハダドエゼルの軍の長ショバクが彼らを率いていた。

このことが報告されると、**ダビデ**はイスラエル全軍を集結させ、ヨルダン川を渡って、**ヘラム***へ進んだ。アラム人はダビデと対決する備えをし、彼と戦った。

*“拠点”の意味。アラム軍の軍事拠点。

■ アラムの大軍を自ら迎え撃ったダビデ。

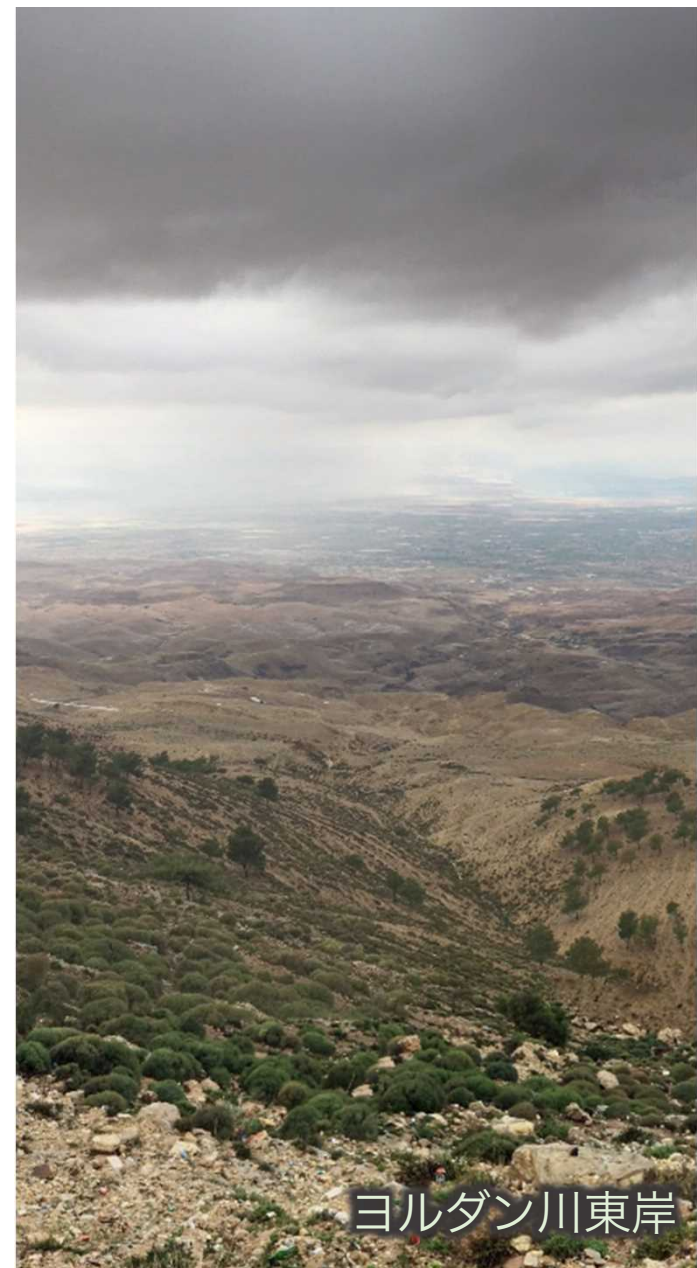


【戦いの結末】 II サムエル10:18~19

アラム人はイスラエルの前から逃げた。ダビデはアラムの戦車兵七百と騎兵四万を殺し、軍の長ショバクも討ったので、彼はそこで死んだ。

ハダドエゼルに仕えていた王たちはみな、彼らがイスラエルに打ち負かされたのを見て、イスラエルと和を講じ、イスラエルに仕えるようになった。アラム人は恐れて、再びアンモン人*を助けようとはしなかった。

- 後ろ盾を失い孤立したアンモンとの最終決戦。
勝ち戦のただ中で、次回、大変な事件が!!



ヨルダン川東岸

《 解説 》

- ・ 大水➡敵の大軍
- ・ イスラエルを絶えず脅かす敵を主が討ち、救い出された。
- ・ 万軍の主への賛歌

聖書朗読 詩篇124篇

都上りの歌。ダビデによる。

エルサレム郊外の町

【詩篇124篇】

124:1 「もしも【主】が
私たちの味方でなかったなら。」
さあイスラエルは言え。

124:2 「もしも【主】が 私たちの味方でなかったなら
人々が敵対してきたとき

124:3 そのとき彼らは 私たちを生きたまま丸呑みに
していたであろう。

彼らの怒りが 私たちに向かって燃え上がったとき

124:4 そのとき大水は 私たちを押し流し
濁流は私たちを越えて行ったであろう。

【詩篇124篇】

124:5 そのとき荒れ狂う水は
私たちを越えて行ったであろう。」

124:6 ほむべきかな 【主】。
主は私たちを彼らの歯の餌食にされなかった。

124:7 鳥のように私たちのたましいは
仕掛けられた罠から助け出された。
罠は破られ 私たちは助け出された。

124:8 私たちの助けは
天地を造られた 【主】 の御名にある。



IV. まとめと適用 今ある戦い。味わうべき交わりの恵み

エルサレム夕景

【ダビデのイスラエルの戦いをどう理解するべきか？】

■時代が違う!! → メシアが救いの業を成し遂げるずっと前。

例) 血の復讐、名誉殺人、虐殺。今でも世界の各地にあること。

日本で当たり前だった一族皆殺し、人身売買、姥捨て…。

■イエス前とイエス後の世界の大きな違い

人権という概念も、イエス後の世界で生まれたもの。

→日本に生きる私たちも、無意識に恩恵にあずかっている。

明治維新後の偉人たちの、背後にある聖書的価値観。

「天は人の上に人を造らず」 福沢諭吉。「啓天愛人」西郷隆盛

【今の時代、クリスチャンに求められる平和とは？】

- 当然ではない平和。復讐に復讐で返すのが今も人の変わらぬ業。
例) アフガニスタン。タリバンによる米協力者への報復。
- ガンジー(インド)やキング牧師(アメリカ)の非暴力運動。
 - ➔ 運動の対象となったイギリスもアメリカもキリスト教国。
 - ➔ 非暴力の戦いが有効なのは、キリスト教的価値観の国だけ。
- 「右を頬を打たれたら」とイエスは告げ、使徒たちも「不正な行いを甘んじて受けないのか(コリ-6:7)」と促している。
 - ➔ 十字架を負うとは、福音宣教のためには、恥辱も厭わないこと。

真実の平和は、ただ信仰により、主によってのみもたらされる

【地上のイスラエルは、来るべき神の王国の影】

- 世界の最終的な回復は、地上が**神の完全に支配する国**となること。
- メフィボシエテは、ダビデ王の恩恵に応じて、王の家族として毎回の食卓を共にする、非常な**栄誉**を得た。
- アンモンは、ダビデ王の厚意を侮辱し、敵とされ、**滅び**を招いた。
- 神の民イスラエルに象徴的に表れている、人の永遠の行く末。
 - ➔ 神の国に、王なる主イエスの家族として永遠に迎え入れられる。
 - ➔ 神の一切の恵みから断絶され、尽きない火の永遠の滅びに堕ちる。

永遠の神と主にある兄弟姉妹との交わりか、永遠の断絶か。

【地上のイスラエルは、来るべき神の王国の影】

■人の永遠の運命を決するのは、**神の恩寵**に対する態度。

■“**主イエス**は、あなたの罪のために十字架にかけられ、墓に葬られ、死を打ち破って復活された。”

→この一方的な恵みの**福音**を受け入れるのか。拒むのか。

■天におられる主イエスは間もなく、**真の王**、**裁き主**として来られる。

→**真実の王**による救いを、応えて信じるのか。拒んで裁かれるのか。

永遠の命か。永遠の滅びか。聖書が突きつける選択は二つに一つ

【主イエスの平和の使者として遣わされよう】

- 平和を作り出す信仰者として、求められる二つの態度。
 - ➔ 人に期待せず、**罪ある人の現実を見据える冷静さ**。
 - ➔ 罪人のために贖いを成し遂げられた**主イエスの愛への全き信頼**。
人には、「**蛇のようにさとく**」。神には、「**鳩のように素直に**」
- 真実の永遠の平和は、再臨の主イエスによってもたらされる。
人々への最善の愛は、**救いの福音を告げること**。
神へ示せる最高の愛は、**主の約束を信頼して遣わされること**。

兄弟姉妹との交わりを喜びつつ、主に信頼し遣わされていていこう

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

ただ主の一方的(いっぽうてき)な恵(めぐ)みによって、わたしに、
永遠(えいえん)の救(すく)いが 約束(やくそく)されました。

この計(はか)り知(し)れない祝福(しゅくふく)に満(み)たされて、
遣(つか)わされる者としてください。

よろこびをもって、福音(ふくいん)を告(つ)げることができますように。

滅(ほろ)びの淵(ふち)にある魂(たましい)を目覚(めざ)めさせ、

永遠(えいえん)の命(いのち)へと導(みちび)いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」